令和６年度　岡山県文化振興審議会　議事録

日時：令和７年２月 13 日（木）14 時～15 時 30 分
場所：ルネスホール　金庫棟２階　ワークルーム

１　開　　会

２　議　　事　　事務局から資料に基づき説明

３　質疑応答

【会長】
ただいま事務局からご説明いただいたが、ご意見ご質問を伺いたい。

【委員】
いろいろな取り組みが精力的になされているということがよく分かった。ただ、自己評価をする際に「これが達成できた」という観点のみならず「ここが足りなかった」というネガティブな側面にも目を向ける必要があるのではないか。

また、このような評価もあってよいのではということで、３点申し上げる。

（１）アートというものは、様々な人をつなげる大きな契機になると思っている。実際に今年度も多くの方々がつながって活動されたと思うが、まだつながれていない所はないか、という検証や評価があってもよいのでは。様々な世代の人、障害のある人ない人・・・のような視点で。

（２）イベントが開催されて多くの方々が来場されるということ自体はとても大切なことだと思うが、イベントが行われるまでの過程で何がどのように変わったのか、例えばある事業で、新しくイベントを計画している若い方がいるとのことだったが、その事業の前後でどう変化したのかという評価の視点があってもよいのではないか。

（３）様々な地域において、まちづくりや、過疎地域の再生のような視点から事業を展開されていることと思う。そういった中で、例えば、高齢者や、生きづらさを抱えている若者の社会参加、今後増えることが予想される定住外国人とのつながりを生み出せるような事業展開や評価があってもよいのではないか。

【文化振興課長】
　委員おっしゃるとおり、文化やアートの分野では、関係者ばかりが集まってしまうという傾向があるように感じている。そういった意味では、まだつながれていない層につながっていけるよう、頑張りたいと思っている。
　イベントの実施過程に関するご指摘についても、どのような効果をもたらしたかという視点は非常に大切なことだと思う。「アートで地域づくり実践講座」においても、実証イベントまでの準備はかなり大変ではあるが、その分イベントを乗り越えた後の受講生の満足度は高い。
　また、イベントを通して得た様々な「つながり」を活かして、新たに別のイベントをやってみるだとか、そういったことにもつながっていると思う。
　福祉やグローバル化の視点についても、人口減少社会ということもあり、障害のある方や外国の方とのつながりも大切にしていきたいと思っている。

【委員】
　様々な素晴らしい取り組みをしていらっしゃると思う。特に、配布資料９ページの「オーケストラの鑑賞機会の提供」は、子供の文化体験の格差に着目している身としては、一つ大きな取り組みとして成功されたのではないかと思う。
　また、資料中に招待者 92 名とあるが、この学校の内訳はわかるか。申し込みの学校差が気になる。
　私が主催しているジュニア俳句大会では大きな学校差がある。熱心な先生がいる場合は何十、何百と応募があるが、全く興味のない学校というのもある。

【文化振興課】
　笠岡公演の無料招待は、グーグルフォームのような形で応募フォームを作成し、そのＱＲコードをチラシに添付して笠岡市内の各小中学校に配布した。フォームの中に学校名の項目があったと記憶しているので、後日回答する。

【会長】
　笠岡公演は私も行った。会場はほぼ満席のように見えたので、成功といえるのではないか。
　私が学生時代に所属していたオーケストラでは、公演する同じホールで、昼は子供向けに無料で音楽教室を開催し、夜には有料で公演を開催するという形をとっていた。そうすると子供達に興味をもってもらえて、公演はほぼ満席になる。
　今後も、多くの子供達に聞いてもらえるような機会を作ってもらいたい。

【副会長】
　先ほどの会長のお話にも関連するが、夜公演の前に、ロビーで楽器に触れさせてあげるような体験をしたら、非常に好評だったということもある。
　また、クラシック公演のチケットを購入する人というのは、約 1,000 人に 1 人程度という話も聞いたことがあるため、723 名という入場者数は、すごいと思う。
　クラシック音楽に触れる機会を増やすために、学校鑑賞会を開催しようとしても、聴覚過敏の児童生徒がいらっしゃる場合は、開催できないこともあるため、日曜日に開催して各ご家庭で出席を判断できるというのも良いと思う。次の開催予定はあるか。

【文化振興課長】
　来年度は県北の方で開催したいと思っている。

【副会長】
　了解した。
　また、吹奏楽の世界では、トランペットは花形で憧れであり、音色の違いも分かりやすい楽器ということで、ソリストの選択も良かったと思う。

【会長】
　笠岡公演のプログラムについてだが、巡回という形で同じ内容を色々な場所でという形ではなく、笠岡でしか聞けないという形で開催されたのも良かったと思う。この事業は継続してほしい。特に子供達を無料で招待するということは大事かと思う。

【委員】
　森の芸術祭について、多くの来場者があったにも関わらず、資料の中でほぼ触れられていない。県の中でまだ成果がまとまっていないのかもしれないが、入れてほしい。
　美作三湯のことは掲載しているのだから、森芸についても掲載してほしい。

【委員】
　私も同意見だ。
「オーケストラの鑑賞機会の提供」について、県北の子供達にとってはこういった機会は本当に少ないため、県北の方にと言ってくれてうれしい。
　また、事業評価の視点として、人数を挙げているものが多くあるが、人数だ

けに頼るのではなく、内容を精査してほしい。人数が大勢でなくても素晴らしいものはたくさんある。人数が多かったから成功、少なかったから失敗ということではなく、内容を精査して様々な事業に取り組んでほしいと思っている。

【環境文化部長】
森の芸術祭に係る記載について、現在検証中であることは事実だが、当部として間接的に関わっていたことではあるし、本日の資料に掲載できなかったことはお詫びしたい。
また、県北でオーケストラを聞く機会が少ないという話もあったが、そういったコンサートや美作三湯など、来年度は県北で様々なイベントを開催しつつ、県内全体にくまなく展開していきたいと思っている。

【委員】
県と大学が連携して事業を展開していくことが多々あるが、例えば、大学の外に出て事業を実施したか、学生が関わったかなど、そういった視点を評価に取り入れても良いのでは。
また、少子化の影響は大学としても強く感じている。受験生が減少するなど、大学の存続にかかわる問題だ。そういった中で、地域との連携はひとつの課題だと思っているし、地域の方々も大学の生き延びに危機感を持っている。
県北の学校では部活がなくなってしまうという話も、美術の分野では聞いたことがある。その際、アウトソーシングできるかというとそれも難しく、地域の衰退が表面化してきている。
プロの音楽家や美術家も、最初のきっかけは地域の音楽教室や絵画教室だったりする。そういったものが、昔は日常の生活にとけこんでいたはずだが、コロナ禍において、発表会がなくなった等の話はよく聞いた。地域に密着した教室から新たな担い手の芽が出ることもあるので、そういった所を拾っていくことが重要だ。
また、アーティストとの出会いが無いことも問題だと思っている。「オーケストラの鑑賞機会の提供」などは、そういうプロとの出会いのきっかけ、子供達が夢を持つきっかけになっているとは思うが、実際に子供達が音楽や美術を始める際の支援があればなお良い。

【委員】
過疎地域において、文化的基盤を若者にどうつないでいくかを考える必要がある。大学のフィールドワークの中で、学生と地域の高齢者が協力して、10 年ぶりに祭りを再生したという事例もあったため、そういった活動への支援も検

討されたい。

【会長】
　地域の祭りで、神輿の担ぎ手がいないということで大学のゼミ生を連れて行ったことがある。若者がいないから祭りができない、文化を継承できないという事態が確かに起こっている。行政としては、若者が流出しないよう産業の振興も含めて文化を支えていってほしい。

【文化振興課長】
　伝統の継承という点についてだが、「アートで地域づくり実践講座」の事業がきっかけとなり、長年途絶えていた「えいとう」という、地域の盆踊りが復活した事例もある。
　本日いただいたご意見を参考に、今後とも県内の文化振興に取り組んでまいりたい。
　最後に、本日欠席の委員には事前に説明を行ったが、内容について概ね賛同いただけた。また、数字にこだわりすぎず、内容をよく精査した事業を実施してほしいとのご意見も頂戴した。

４　閉　　会